

令和8年度 第1回生駒市総合計画審議会（第一部会） 会議録

開催日時 令和8年5月12日（火） 14時00分～15時40分

開催場所 生駒市役所4階 403・404会議室

出席者

（委員）高取委員、大谷委員、清水委員、中垣委員、長崎委員、松山委員、塗本委員

（事務局）企画政策課

（担当課）地域コミュニティ推進課、市民活動推進センター、健康課、地域医療課、
国保医療課、生涯学習課、図書館、スポーツ振興課、消防署

欠席者 なし

議事内容

1 各施策の検証

2 その他

【事務局】 （開会宣言、配布資料確認）

以下、発言要旨

【高取部会長】 全体会で話があったように、部会では担当の施策において掲げる令和9年度末の目指す状態の実現に向けてPDCAサイクルを回すための審議をしたい。また、今回の審議は各施策目標に対する令和7年度終了時点の進捗の検証なので、個別の事業に関して改善点や変更点の議論をする場ではないことを予め申し上げる。

基本的施策1 市民自治活動・学び

施策の主な方向性1 持続可能な身近なコミュニティづくり

【清水委員】 事業評価において、該当なしの選択をされている箇所が散見される。各担当課による判断なのか、庁内で協議した結果、市として該当なしという評価となったのか。事業によってはすべての評価項目において該当なしとなっているものもあった。

【事務局】 取りまとめ時に事務局においてチェックし、できる限り担当課において自己評価するよう促している。すべての評価項目において該当なしとなっているの

は、おそらく予算措置を行っただけで事業の実施はできていないものだと思います。

【高取部会長】 課題として、「まちのえき」づくりに新たにに取り組む自治会数が伸び悩んでいるとあるが、こういったことが障害となっているのか。

【地域コミュニティ推進課】 役割を担っていただく方の人手不足が主な原因だと考えている。

【高取部会長】 今後どのように対策するのか。

【地域コミュニティ推進課】 毎年実施している自治会の全体集会等において、引き続き事例紹介を行うなどの情報発信に取り組む。また、今年度から庁内各課と連携し、各課の事業で「まちのえき」と連携できるものを再検討し、新たな連携メニューを模索する。

【高取部会長】 補助金終了後に事業を継続、発展することが難しい自治会もあるとあるが、補助金は一定期間で終了するのか。

【地域コミュニティ推進課】 将来的には自治会単独で持続可能な運営を行っていただくことを目指しており、補助金の交付期間は3年間としている。その後は、自治会単独で自走できるよう収益の確保をお願いしている。

【高取部会長】 補助金を終了するにしても、急になくなってしまうと事業運営が難しくなると思うが、工夫していることはあるか。

【地域コミュニティ推進課】 補助金を交付する3年間において、補助率が逡減するように設定している。

【松山委員】 「まちのえき」づくりにおいて、将来的には自治会以外の市民団体を交付対象とする予定はあるのか。

【地域コミュニティ推進課】 今後何年間か様子を見ながら、こういった補助がよいのか検討したい。

【松山委員】 自治会の加入率が年々低下しているが、これをいかに食い止め、生駒市らしい自治会づくりを行政として支援できるかを検討していただきたい。一方

で、市民自治協議会の取組が進んでいないと思うが、その検証はいかがか。

【地域コミュニティ推進課】 今年度、東地区において準備会の立ち上げを検討しているので、丁寧に伴走しつつ、市民自治協議会の立ち上げに向けて支援したい。

【松山委員】 各地域において少しずつ動きはあるが、市全体としての動きが鈍いように感じる。自治会だけの意向では前に進まないの、行政が丁寧に伴走していただきたい。

【長崎委員】 単独の自治会組織が弱体化しているので、市民自治協議会のような多様な主体が参画する組織に「まちのえき」といった複合型の拠点活動を組み合わせていただきたい。

【高取部会長】 「まちのえき」づくりの事業評価においては、まちのえきの数を KPI としているが、まちのえきの定義やカウントする際の線引きなどはあるのか。

【地域コミュニティ推進課】 基本的に現在は補助金を活用して事業を実施している自治会を集計している。

【高取部会長】 生駒市全体で各まちのえきがどのような活動をしているのかを知ることができるホームページ等はあるのか。

【地域コミュニティ推進課】 市のホームページ内にまちのえきの紹介ページを設けており、そこに事例集を掲載している。

【中垣委員】 補助金を活用せずとも、まちのえきと同様の活動を行っている自治会もある。そういった活動が KPI の実績に入らないのはもったいないと思う。補助金制度についても初年度に手厚く補助するのか、継続している事業に対して手厚く補助するのか等を変えることで、取り組む自治会の数も変わると思う。

【高取部会長】 補助金の活用をまちのえきの認定要件とするのではなく、行っている活動の内容で認定することで、件数も伸びるのではないかな。

【長崎委員】 補助金をもらえるからという動機では活動が続かないと思う。指標の取り方を検討しなおしてもよいのではないかな。

施策の主な方向性 2 主体的な学びの場の創出

【清水委員】 解決すべき課題として学びの場を提供する仕組みが十分に整っていないことに対して、他の機関と連携した事業を展開するということだが、具体的な考えはあるか。

【高取部会長】 そこは私も気になっている。課題として多様化する学びに合わせ、柔軟に学びの場を提供する仕組みが十分に整っていないとあるが、その前提にある問題は何があるのかを教えていただきたい。

【生涯学習課】 様々な年齢層に合わせて多様な学びの場を提供しているが、今回課題として記載したのは寿大学のことである。寿大学では現在、62 歳以上を入学の対象としているが、昨今 62 歳でも現役で働いている方が多く、在校生の平均年齢も上がっており、入学者も年々減っている。設立当初から時代が変わり、社会のニーズも変わってきているので、他部署との連携も含めて寿大学のあり方を検討したいと考えている。

また、子育て世代や働き盛り世代を対象に様々な部署で多様なイベント等の事業を実施しており、重複している感じが否めない。そのあたりを整理しながら、部署間での棲み分けを行い、協議・連携しながら特に高齢者を対象とした学びの場の提供に注力したい。

【高取部会長】 高齢でも就労する方が増えているのは時代の変化であり、今後も変えようがないと思う。そういった変化に対する対策はあるのか。

【生涯学習課】 これまでの寿大学は定年退職後の地域の仲間づくりを主な目的として実施していたが、現在では SNS 等が普及するなど、設立当初から時代が大きく変化しているので、根本的に見直す必要があると考えている。

【高取部会長】 例えばオンデマンド化するなどのデジタル化を想定しているのか。

【生涯学習課】 令和 7 年度に高齢者向けのスマホ講座や AI 講座を実施したところ、大変人気があったため、そういったところにも注力したい。

施策の主な方向性 3 文化振興による市の魅力向上

【清水委員】 解決すべき課題として歴史に興味のない市民への普及とあり、その解決策として手にとりやすい価格設定やデジタル化とあるが、そもそも興味のない市民に対する解決策にならないのでは。歴史を楽しむことを通じて普及する

手法を検討されてはいかがか。市史編さん事業の成果を生駒ふるさとミュージアムの施設利用に繋げることを考えているのであれば、重要な点だと思う。他の解決策は検討しているのか。

【図書館】 今回作成した生駒市史に対するイメージとして、学術書や専門書と捉えられることを危惧している。一部の方だけでなく、だれもが気軽に手に取っていただける図書としてご覧いただきたいという思いから、低廉な価格設定で市内の書店でも販売している。また、編さん過程において、なるべく楽しんでいただけるよう、市民の皆さんと一緒に生駒の史跡をめぐるフィールドワークを行うといった活動も続けている。

さらに、今年度図書会館がリニューアルオープンし、図書館内でイベントが実施できるようになったので、学芸員でもある編さん事務局の職員による翻刻ワークショップというかたちで市史編さんの裏話やどのようにして作ってきたかということをお話する場を図書館内で設けることを計画している。そういった場には、たまたま来館した方でも参加できるようにし、市の歴史に触れる間口を広げたい。また、ふるさとミュージアムに関しては生涯学習課の所管となるが、市史編さん委員の先生方の講演会等を積極的に行うなどの連携をしている。

【高取部会長】 生駒市史の購入層はある程度把握しているのか。

【図書館】 現在は書店での販売となっているためリアルタイムで把握はできないが、図書館でも販売しており、意外と若年層の方でも興味を持ってくださる方は多い。年齢はあまり関係がないと思う。

【中垣委員】 そもそも興味のない人には届きにくいと思うので、若い人でも年配の方でも少しでも興味のある方に届けるための課題はないかという視点が重要である。

【清水委員】 例えば都市計画の分野では3D都市モデルが充実しており、昔の風景を3Dで復元するとか、AR技術により昔の街並みを再現するといった取組もある。そういった活動を通じて、歴史に興味を持ってもらうことも検討してはいかがか。

【大谷委員】 社会教育全般の話になるが、産官学地域が連携・協働することにもっと意識を持っていただきたい。さきほど寿大学でのAI講座という話があったが、

そういったことを行政だけで実施するのは限界があると思うので、企業や大学等との協働で取り組むことを検討されるとよいのではないかと。

【生涯学習課】 令和7年度から商工会議所と奈良国立大学機構と生駒市が連携し、リカレント教育の事業に取り組んでいる。そういった産官学連携も今後注力したい。

基本的施策1 市民自治活動・学びの総括

【高取部会長】 全体的な進捗としてC評価となっているが、この評価でよいか。私はむしろ控えめな評価かなと思うが、いかがか。

【各委員】 了承。

【清水委員】 この施策の目標は自ら学び、地域活動や市民活動に取り組む市民が増えていくということで、市民を評価することになる。生駒市は自治基本条例もあり、一生懸命取り組んでいる市民の方がこの評価を見たときに残念に思われるかもしれない。今後、総合計画の評価は頑張っている市民の方も見ていくということを意識しながら評価をする必要があると思う。

基本的施策7 健康づくり・医療

施策の主な方向性1 健康的な暮らしの実践促進

【松山委員】 解決すべき課題に体育施設の予期せぬ修繕等が多いとあるが、こういったものがあるのか。

【スポーツ振興課】 体育施設については敷地が非常に広大であり、大雨の後の倒木などの敷地内で原状復帰が必要となるケースが多々ある。

【高取部会長】 設備や施設の老朽化に関する市内体育施設整備事業がこの施策にあることに違和感があるが、事務局としてはどう考えているか。

【事務局】 第6次生駒市総合計画第2期基本計画において、当該施策の主な方向性のなかにスポーツに触れ合う機会の確保という項目があり、その事業として市内体育施設整備事業が紐づいている。

【長崎委員】 他の公共施設も含めた施設整備のグループに紐づいている方がわかりやすいのでは。

【事務局】 当該施策とは別に経営的施策というグループがあり、その中の「行政経営」という施策の中にファシリティマネジメントの推進という事業がある。市の施設全体の管理等はその事業が担っている。

【高取部会長】 小学校の体育館等は、学校・教育の施策に入っているのか。

【事務局】 そのとおりである。

施策の主な方向性 2 いのちを守る医療提供体制の充実

【長崎委員】 市立病院については非常に頑張っておられる。診療に来る人も増えているのでは。

【地域医療課】 増えている。ただ、全国的にコロナ禍を経て受診控えが増えているので、市立病院の受診者だけが増えても地域全体としてはよくないと考えている。今後は地域の連携病院同士の連携強化を進めたい。

【高取部会長】 市立病院において、設備の補修や施設の修繕などの課題はあるか。

【地域医療課】 開院から10年が経過し、機械等の設備関係が劣化しているところもあるが、定期的にオーバーホールを行う等の適切な管理を行っている。市立病院は交付税以外にも、指定管理者から指定管理者負担金というかたちで毎年3億円弱の資金をいただいているので、そういった財源を活用しながら整備・修繕を行うという計画で進めている。

【高取部会長】 建物の保全に係る経費を指定管理者が負担しているということか。

【地域医療課】 発注は市で行っているが、その原資として指定管理者の収益の一部を活用している。

【高取部会長】 最近のトレンドとして中東情勢の悪化があるが、市立病院の運営に影響はあるのか。

【地域医療課】 指定管理者に確認したところ、当面の運営に影響はないと聞いている。今後整備工事を進めるにあたっては、資材の調達等で影響が出る可能性はある。

【松山委員】 市立病院の受診者が増えるなかで、駐車場の確保はどのように考えているのか。

【地域医療課】 駐車場用地に関しては駅前という立地もあり、近隣に大規模な用地がない状況である。今般、増床するにあたって駐車場に関する問題が生じたら、改めて検討する必要があるとは考えている。

【高取部会長】 人件費の問題は発生していないのか。

【地域医療課】 指定管理者からは問題は生じていないと聞いている。

施策の主な方向性3 安定的な医療保険制度の運用

【清水委員】 課題として、若年層の受診率が低いまま横ばいというのはどの自治体でも見られることだが、何か大きな要因はあるのか。また、この解決に向けて推奨方法を工夫するとあるが、周知以外の解決策が何かあれば教えていただきたい。

【国保医療課】 若年層の受診率の低迷について、特に何か大きな要因は把握していない。解決策として、受診券を発送する際に受診のインセンティブとしてクオカードが当たる等の特典を用意することで改善に向かっている。本市が特に低いというわけではなく、健康意識も高いと認識している。

【高取部会長】 若年層の受診率が低いという課題は全国的に共通の永遠の課題であると感じる。生駒市が他市町村と比べてとても低いのであれば、特筆すべき課題かもしれないが、そうでないのであれば現在取り組んでいる様々な工夫を継続するということが良いと思う。

【松山委員】 若年層の受診率を上げるための各種対策を取られているが、どの対策が効果的かを検証するための調査をする必要があると思う。

【高取部会長】 本人に健康意識や危機感がなければ受診しようと思わないので、どうしてもインセンティブで誘導する対策となりがちである。本来は健康意識を高く持っていただき、将来に対する不安や危機感を感じていただいて、早期発見や予防に結びつくから受診しようという流れを生み出すのが理想である。また、受診すればよいというものではなく、受診によってどのくら

いの障害・疾病を予防できているのかが重要である。それを分析するのは難しいと思うが、そのあたりを意識することも大切である。

【塗本委員】 もし健康診断で悪いところが見つかった場合の費用負担等はどのようなのか。

【国保医療課】 健康診断で悪いところが見つかり、すぐに治療が必要な場合には、本人の保険診療となる。本人の収入状況等に合わせて負担区分も様々な段階があり、窓口ではそういった説明を行い、相談に応じている。

【事務局】 （庶務連絡、閉会宣告）